

講習の名称：主体的・対話的で深い学びを育む古典教育

担当講師：藤本宗利（教育学部教授）

講習開講日：令和2年8月8日（土）

時間数：6時間

主な受講対象者：中学・高校の国語科の教諭、国語科に関心のある小学校教諭

キーワード：古典教育、和歌、俳句、枕草子、源氏物語、伊勢物語、平家物語、奥の細道  
日本的表現史、伝統と独創、

講習の概要：平成28年12月の『中央教育審議会 答申』において、「我が国の言語文化に親しみ、愛情を持って享受し、その担い手として言語文化を継承・発展させる態度を小・中・高等学校を通じて育成するため、伝統文化に関する学習を重視することが必要」と提示されている。この目標を達成するためには、古典の「楽しさ」を理解させることによって、学習者の古典への関心・意欲を高める必要がある。児童・生徒をアクティブラーニングや学び合いへと導くための、古典学習の基礎基本について考察する。

現在の教育現場において、古文はどうしても文意理解の対象として扱われ、文法・単語の習得に力点が置かれがちである。ここでは教科書に採られる古典作品を対象に、各教材間のつながりを学習者に理解させることにより、見過ごされてきた作品の魅力に気付かせ、主体的・対話的で深い学びの姿勢を育む古典指導のあり方を考えていく

講習の展開：

第1時限 「春はあけぼの」再考—アクティブラーニングの基層—

第2時限 短歌・俳句とどう向き合うか

第3時限 『平家物語』を学ぶ意義

第4時限 物語を「読む」—学び合いを支えるもの—

受講に当たっての要件（講習内容のレベル）：特になし

授業の形式：講義形式

履修認定試験：論述形式の筆記試験（ノートと配付資料は持ち込み可）

テキスト・参考文献：プリント配布